

# CAMPUS 八戸学院

vol.57

行政機関×高等教育機関 八戸市

幼稚園のアフタースクール  
～子どもたちの可能性を発見する～

八戸学院大学地域経営学部主催  
**八戸SDGsフォーラム開催**  
 ～より良い社会になるための活動を考える～

本学地域経営学部主催の「八戸SDGsフォーラム」を2021年1月27日～2月3日の1週間、八戸ポータルミュージアムはつちにて開催しました。

SDGsとは何か、世界レベルの問題に対して、地域レベルでできることは何か、八戸が持続可能な都市になっていくためにはどうしたら良いか、玉樹特任教授の講演から始まったトークイベントでは、デリーー東北新聞社から地域経済について、八戸商工会議所からは八戸港の取り組みなど話題提供をもとに地域の皆さんと考えました。

また、八戸市内4つの高校からはSDGsに関する研究活動成果を発表いただきました。SDGsの目標を身近な地域課題と接続させて、高校生ならではの視点で自分たちでできることを考えて行動した成果は、多くの市民に勇気を与えました。1週間ギャラリィに展示されたポスターには多くの応援メッセージをいただきました。

地域経営学部として、地域の大学として、今後もSDGsや持続可能な地域について考え続けていくことが必要であり、継続的に今回のようなフォーラムを実施していきます。

地域経営学部地域経営学科  
 講師 井上 丹



SDGsに関する研究活動成果の発表や活動を紹介するパネル展示が行われました



CONTENTS

- 3 八戸SDGsフォーラム開催  
～より良い社会になるための活動を考える～
- 4 行政機関×高等教育機関 八戸市
- 6 幼稚園のアフタースクール  
～子どもたちの可能性を発見する～
- 8 学科紹介 介護福祉学科
- 10 ステラが行く／ステラ・フォーカス
- 12 八戸学院 TOPICS
- 14 八戸学院 CLOSE UP！
- 15 同窓生の広場
- 16 ALT 紹介
- 18 これからの八戸学院大学について  
～天の時、地の利、人の和～
- 19 理事長散策

ヴァンラーレ八戸とオフィシャルパートナー契約を締結。ホーム戦でプライフーズスタジアムの「ピッチボード」に八戸学院のロゴが掲出されます。

締結式で法務理事は「地元で根差したプロのサッカーチームの活躍は本学院の選手に大きな励みになっており、学院を挙げて応援したい。これまでも協力関係が築かれてきたが、今後、高等教育機関として学術的な部分での関わりにも期待したい。」と述べたのに対し、下平社長（光星高校卒）は「コロナ禍においてオフィシャルパートナー締結をしていただける意義を噛みしめて2021シーズンに挑みたい。」新井山選手（光星高校卒）は、「母校からサポートを受けることになり光栄に思う。結果で恩返しをしたい。」と決意を語りました。

株式会社ヴァンラーレ八戸・学校法人光星学院  
**オフィシャルパートナー締結式**

光星高校卒業の下平賢吾社長(右)と新井山祥智選手(左)

ヴァンラーレ八戸と  
**オフィシャルパートナー締結**

CAMPUS  
**八戸学院**

vol.57



表紙

幼稚園では、子どもたちの可能性を発見するアフタースクールが実施されています。この日は、第二しのめ幼稚園で「習字教室」が行われ、年長組の園児5人が自分より大きな半紙に卒園式で使用する作品を書きました。

建学の精神  
**「神を敬し、人を愛する」**  
 カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

- 八戸学院大学  
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部  
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター  
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館  
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校  
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院光星高等学校専攻科  
TEL 0178-25-6322
- 八戸学院野辺地西高等学校  
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園  
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園  
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園  
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>



## 八戸市



### 市長 小林 眞

1950年生まれ。八戸市出身。  
1975年東北大学法学部卒業。  
同年青森県庁入庁。  
1979年自治省（現総務省）入省。  
1991年埼玉県浦和市（当時）企画部長。  
2001年全国市長会行政部長。  
2003年自治医科大学大学事務部長などを経て、  
2005年11月から現職。

### 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部と八戸市との連携について

八戸市では、地域の活性化と持続的な発展を図るため、八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部をはじめ地域の高等教育機関と様々な連携に取り組んでいます。

平成21年9月に、八戸学院大学、八戸工業大学及び八戸工業高等専門学校との連携により発足した「八戸市都市研究検討会」では、これまでに、産業連関分析による地域経済活性化へのアプローチ、都市のイメージづくりと情報発信力の強化、若者の地域定着とU・I・Jターンの可能なまちづくりなど、多岐にわたる

テーマで調査研究を行ってきました。

この検討会でいただいた提言は、当市が実施する中小企業の経営支援や、自動車・医療福祉などの成長発展が期待される分野における地元企業の新規参入支援といった取組に活かされるとともに、八戸圏域の地場産品の販路拡大や関係人口の増加を目指し、昨年9月に東京都内にオープンした「八戸都市圏交流プラザ base（エイトベース）」といった取組にも活かされています。

また、平成30年7月には、八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学及び八戸工業高等専門学校の4つの市内高等教育機関と八戸市及び八戸商工会議所が締結した包括連携協定に基づ

き、「八戸産学官連携推進会議」を設置

し、若者の減少による労働力不足や市内高等教育機関進学人数の減少といった地域課題の解決に向けて、産学官が一体となって取り組んでいます。令和2年3月には、この会議において「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」が策定され、同計画の将来ビジョンである「若者が地域の産業や文化を深く理解し、地域に定着することにより、多様な世代が持続的に生活できる、または生活したくなるまちづくり」の実現に向け、各機関が大局的な視点で分野横断的に連携して取組を進めています。

加えて、当市では、学生が自主的に取り組む地域振興に関する活動や地域への

貢献活動を「学生まちづくり助成金制度」により応援しており、八戸学院大学及び短期大学部ではこの制度を活用し、これまでに、みちのく潮風トレイルの散策によるストレス軽減効果の測定、子どもたちを対象としたプレーパークやタグラグビー教室、廃材を活用した創作ワークショップの開催など、専門的な学びを活かした様々な取組を展開されています。このような取組は、学生の皆さんにとって、学内だけでは得難い経験になるとともに、地域においても、学生の若い感性と活力によるまちの魅力向上や地域振興、そして、若者のまちづくり参画の促進につながっています。

さらに、両校では、地域住民の方々や地元企業等と連携した活動にも取り組まれています。市民から募った写真を展示するアートプロジェクト「ハチノヘブルー2020」は、新型コロナウイルス感染症への対応の最前線で奮闘している医療従事者等の励みになるとともに、不安な日々を送る市民の心の癒しとなり、また、誰でも参加できる「子ども食堂」は、子どもから高齢者まで世代をこえて交流できる場として喜ばれ、その活動は市内外に広がっています。

情勢の先行きは不透明な状況にありますが、私は、このような中で地域社会の持続的発展を図っていくためには、行政と高等教育機関が連携して地域課題の解決に向けて取り組んでいくことが、今後ますます重要になると考えております。

八戸学院大学、八戸学院大学短期大学の皆様におかれましては、地域に根ざした高等教育機関として、若者への多様な就学機会の提供と現代社会が求める有為な人材の育成、まちを元気にする地域活動を継続していただきますとともに、市政へのより一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



タグラグビー教室



ハチノヘブルー 2020



子ども食堂



みちのく潮風トレイルの散策によるストレス軽減効果の測定



プレーパーク

礼儀作法と共に思考力・判断力・集中力・継続力を養います。



硬筆や毛筆を使って、  
きれいな字を身につける。



### 習字教室

開催/週1回(年間30回)  
時間/1回60分  
対象/3歳児以上  
講師/宮城野書人会同人 市川紫泉先生

第二  
しのめ  
幼稚園



個性に合わせた  
きめ細やかな  
レッスン!



### ピアノ教室

開催/週1回(年間35回)  
時間/1回60分  
対象/年少以上  
内容/鍵盤演奏  
講師/カワイ音楽教室 橋本祐子先生

第二  
しのめ  
幼稚園



### 音楽教室

開催/週1回(年間40回)  
時間/1回60分  
対象/年少児・年中児  
内容/リトミック、音楽活動、鍵盤演奏  
講師/カワイ音楽教室 玉澤由希子先生

八戸学院  
幼稚園

自己表現力を高め、個性を伸ばす。

# 幼稚園のアフタースクール

～子どもたちの可能性を発見する～

### 体育教室

開催/週1回(年間40回)  
時間/1回30~60分(年齢による)  
対象/年少児以上  
内容/跳び箱、マット、鉄棒、ボール、  
縄を使った運動  
講師/カワイ体育教室 松村奈緒子先生

八戸学院  
幼稚園



### 体操教室

開催/月2回(年間20回)  
時間/1回60分  
対象/満3歳児以上  
内容/跳び箱、マット運動  
講師/くぼた体操スクール 赤坂裕美子先生

第二  
しのめ  
幼稚園



個性を大切に、心と身の調和を図ります。



# 「介護福祉の学びの勧め」 —実践力を身に着けた専門職として生きる道—

介護福祉学科はこの3月に初めての卒業式を迎えます。留学生を含め、誰一人として欠けることなく、介護福祉士として学園を巣立ちます。それぞれの職場で社会人としての第一歩を踏み出します。現1年生も、仲間同士の温かな支え合いの中で、熱意を持って学びを深めており、少しずつ未来の姿が見えてきています。あなたも、先輩たちと共に、実践力を身に着けた専門職である「介護福祉士」としての未来を切り拓いてみませんか。

介護福祉学科では、学費面でのサポートを含め、皆さんの学びをがっちりとして支援します。

上画像 ステンシルで花を描く  
手が不自由でも上手に絵が描けるのは、ステンシルの魅力。使い古しのクリアファイルを切り抜けば型紙の出来上がり。介護施設の実習で利用者さんと描けるかなと楽しみがふくらみます。

## 介護福祉学科



美保野キャンパスに佇む実習施設

八戸学院大学短期大学部 介護福祉学科

2019年4月に開設し、地域の未来をつくる新しい福祉の学びの場として、地域ぐるみで高齢者等を支援する体制の構築や介護福祉サービスの充実など、多様化する地域福祉へのニーズに応える人材を養成。「豊かな教養」「確かな専門知識と技能」「高い実践力」を兼ね備えた介護福祉士を育成します。

し、地域や社会のニーズに対応しながら福祉社会に貢献できる人材の育成を基本目的としています。



新聞紙ホッケーの様子  
身近な材料で道具を作るところから、身体を使う活動が始まります。

例えば、介護度が高い方が移動しようとする場合、一人で立ち上がることができない、不安定で心配…など、様々な困難を伴う場合があり、介助が必要となりますが、援助者がどのような形で関わるかによって、介助を受ける方の心のあり方は大きく変わります。援助者と介助を受ける方が相互に理解し信頼し、目標を共有できるかがとても大切になってきます。一緒に活動しながら、その活動の楽しさを共有することにより、活動そのものも大きく変化します。生活場面や余暇場面で「楽しさ」を体験しながら意欲を高め、機能改善や自立に向けた活動を支援することを「生活リハビリテーション」や「遊びリハビリテーション」と呼び、介護の実践において重要な考え方になっていきます。

介護福祉学科のカリキュラムは、このような考え方に基づいて編成されています。まずは、心理学など他者を理解するための科目やコミュニケーション技術の学びを通して、援助を必要とする方々との人間関係の形成について専門的で理論的な学びを深めます。また、介護福祉の制度的背景についても学びます。こうした理論的な科目の学びと並行して生活支援技術やレクリエーションの展開に関する科目なども学び、理論的な学びと実践的な学びを融合しながらカリキュラムが展開されます。

生活支援技術の学びなどにおいては、実際に介護事業所で介護福祉士として第一線で活躍されている方々などにも講師をお願いしており、現場感覚を活かした講義や演習を行っています。

### 介護実習を通じた学び

介護福祉学科では、学内での学びの他に、実習先での介護実習を通じた学びがあります。障害のある方や介護が必要な方々と実際に関わり、スタッフの方々から指導を受けることにより、「介護の仕事」に就くことの意味を理解し、人と人が助け支え合うということを実践的に学ぶことができます。

実習前には、実習先事業所に関する調査、実習計画の作成などの事前準備を十分に行って臨みますが、実習を経験すると学生達は、「予想と違っていた」「利用者さんに多くのことを学んだ」「スタッフの人達のパワーを感じた」などと語り、学生一人ひとりが大きく成長するとともに、学年全体の雰囲気が大きく変化します。

### 「短期大学」で学ぶユニバー

短期大学と専門学校の違いはどこにあるのでしょうか？それぞれの学校にはそれぞれ



手洗は、清潔保持だけでなく、リラクゼーションも図れます。業に頼らなくても安眠や精神安定につながるように。そして、大切なのは、相手を安心させる言葉の選びかた。

### 心が理論を学び実践を学ぶ

「介護福祉を学ぶ」という言葉から、どのようなことを思い浮かべるでしょうか？多くの方は、ベッドから車椅子に移る際の介助方法や介助技術などを学ぶというイメージをお持ちになるかもしれません。もちろん、こうした方法や技術を学ぶことはとても大切ですが、介護福祉学科の学びの中で重要な位置を占めていることは間違いありません。

介護福祉の役割は、障害や加齢により様々な支援を必要としている方々の生活を支えることですが、単に「できないこと」に着目してその「部分を補う」という取り組みにとどまらず、支援を必要とする方が「望む生活」を実現することにあります。介護福祉学科では、こうした視点に立ち、尊厳と自立を支えるケアを実践



季節の歌をきっかけに、昔を懐かしむ話題を考えます。慣れ親しんだ歌の選曲も大切です。

それぞれのメリットがあり、最終的にどちらを選択するか自分自身で慎重に考える必要があります。

短期大学は、実学教育と大学教育のメリツトの両方を併せ持っていると言えます。八戸学院大学短期大学部介護福祉学科では、教養系科目として豊かな教養と人間性を培うための科目を設定しているほか、基礎ゼミや研究演習などのカリキュラムを設定しており、自らテーマを設定して研究活動を行うこととしています。

また、八戸学院大学の教員が担当する科目もあり、「美保野キャンパス」全体の強みを活かした教育活動を展開しています。勉強からは少し離れますが、美保野キャンパスにある大学・短大として、様々な行事などを通しての学生同士の交流もありません。

国際色豊かな学園で学ぶ  
美保野キャンパスでは、大学・短大とも、アジアの国々を中心に、留学生を受



八戸学院 美保野キャンパス 学園祭2020  
<https://jc.hachinohe-u.ac.jp/nyushi/open-campus/web/>

### ウェブオープンキャンパス開催中！

介護福祉は人を対象として展開される活動です。介護ロボットの導入など、介護の世界にも自動化やICTの波が押し寄せて、業務内容は大きく変化しつつあります。しかし、人の心を豊かにしているのは、人が人と関わることでしか実現できません。人とつながることが好きな方、人に関心を持っている方、介護福祉の仕事に是非挑戦してみませんか。

「国際化」「多様性」といったことが、今後、ますます重要となってくると考えられ、留学生と一緒に学ぶ時間を過ごすことは、貴重な体験となるでしょう。

介護福祉は人を対象として展開される活動です。介護ロボットの導入など、介護の世界にも自動化やICTの波が押し寄せて、業務内容は大きく変化しつつあります。しかし、人の心を豊かにしているのは、人が人と関わることでしか実現できません。人とつながることが好きな方、人に関心を持っている方、介護福祉の仕事に是非挑戦してみませんか。

## 八戸学院聖アンナ幼稚園

### お餅つき会

ホールに広がる蒸かしたてのもち米の香りに、子供たちは「う～ん、美味しそう匂いがする!」と大はしゃぎ。臼に入った、湯気の立つもち米を興味津々に覗き込み、餅つきへの期待は最高潮。運転手さんたちが杵で搗き始めると、どすんどすと床に振動が伝わり、時々臼から飛び出てくる米粒にも歓声が上がります。搗くりズムに合わせて、「よいしょー!」と力強い掛け声。自分たちで搗いて丸めたお餅は格別。子供たちリクエストの、きな粉と砂糖醤油で美味しく戴きました。



ステラ・フォーカス



八戸学院3幼稚園  
マスコットキャラ  
ステラが行く  
vol.9

本園では、造形・絵画に力を入れた教育を伝統的に継承し、特色ある教育を行っています。その中の一つである八戸学院大学短期大学部幼児保育学科准教授池田拓馬先生の「造形教室」が3年目を迎えました。昨年10月5日の「ボディペインティング 手と足で描こう」を、指導案、当日の写真、池田先生のコメントでご紹介します。

## 八戸学院第二しののめ幼稚園 「ボディペインティング 手と足で描こう」

「ボディペインティング 手と足で描こう」

材料：ゆび絵の具、模造紙

対象：満3歳、年少（ひよこ組・りす組）

時間：1時間

内容：「ゆび絵の具」の感触を感じながら手のひらや足の裏につけ、裏打ちをした模造紙に身体全体を使いながら描いていく。描く決まり等を作らず自由に遊びながら描く。違う色を使いたい場合は濡らした布巾で手や足を拭く。パッドが滑りやすいので転ばないように留意する。

ねらい：手のひらや足に直接絵の具を塗ることで道具や材料に親しみ、日常生活では触れない感触を楽しむ。身体全体を使い大きな画面に描くことで身体感覚を育むとともに、自分の手足の動きや大きさに連動した形を見たり意図的に表現したりする中で運動と感覚、視覚が一体となった複雑な感覚を通じ豊かな情操を養う。



池田先生が造形教室で留意していること  
造形や美術において仕上がった「作品」や「描き方」などが一般にその中心にあると思われ、技術的に優れていることが重視される事も多い。しかし、技術的に優れていることは全く別の状態です。

造形活動を通じ子どもたちが「工夫した気持ち」「楽しい気持ち」「嬉しい気持ち」それらが自然と沸き起こるような技法や材料、題材選びを心がけ、作品からその様々な思いの痕跡が読み取れるような「すばらしい表現」を、子どもたちと一緒に考えています。

初めは恐る恐る絵の具に触れていた子どもたちは、絵の具を塗った手や足で感触や形を知ると、紙の上を思い切り駆け、飛び跳ねて描き始めました。ほとぼるる楽しさと嬉しさが、青や黄緑色で塗り重ねられた「作品」は、「モネの水蓮」を彷彿させるすばらしさでした。



## 八戸学院第二しののめ幼稚園

### 焼き芋会

幼稚園の前にある広い畑で収穫したさつまいもを使って焼き芋会をしました。

濡らした新聞紙に包み、アルミホイルを巻いて準備するのを、年長児は満3・年少児のお手伝いをしながら楽しんで取り組みました。

運転士さんをお願いして焼いてもらったさつまいもは、おいしい、おいしい焼き芋に変身子どもたちは大喜びでした。

黄色く甘い焼き芋をみつけると、「食べたい!食べたい!」とあちらこちらから聞こえてきました。

年中・年長児は、お外で運転士さんと一緒に食べたり、お話をしながら楽しい時間となりました。



## 八戸学院幼稚園

### 響け!ぼくらの歌

今年の年長児は歌を歌うことが大好きです。年少・年中児の頃から腹式呼吸や発声法の練習などに熱心に取り組んできたこともあり、とても素敵な歌声を聞かせてくれます。コロナ禍ですが発表する場を設けたい!と“歌の集い”を園のホールで行いました。観覧希望の保護者を招き、何度も歌ってきたおなじみの曲を元気に歌い上げたり、曲のもつ世界観を年長児みんなで共有して不思議な世界を歌ったりと、全4曲を披露しました。年長児や観客へのインタビューも交えて、おしゃべりあり、笑いあいの楽しい集いとなりました。2月上旬には“音楽の集い# (シャープ)”も企画中です。今度は鍵盤ハーモニカの演奏も楽しみます。



**光星高 高校生による出前講座**

～保育や介護の魅力発信～ [11/27]

保育や介護の魅力を中学生に発信することを目的に、昨年度から本校の生徒が講師役を勤める、中学校出前講座を始めました。今年度は三戸中学校さんから依頼を受け、感染防止対策を行い出前講座を開催しました。

対象が中学1年生（三戸中学校さんでは小・中一貫校のため7年生）ということもあり、保育士や介護士の職業について、手遊び歌や生徒が創作した介護予防体操などを交え、90分間講義や実技を行いました。講師役になった生徒たちは、少しでも保育・介護の魅力を伝えたいと、何度も練習を繰り返し当日に臨みました。緊張から、予定よりも若干早く終了するというハプニングはありましたが、クイズや実技の場面では中学生も楽しんで参加してくれていました。

アンケートには、保育や介護の仕事について関心を示す内容のものもあり、微力ではありますが、その使命を果たせたものと思っています。このような活動を今後も継続し、地域の活性化に貢献していきたいです。



**光星高 吹奏楽部「第15回定期演奏会」開催** [11/15]

今年度の第15回定期演奏会は11月に本校体育館にて感染防止対策を第一に行い、お客様は部員の保護者・学校関係者のみで開催いたしました。ご協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、第1部のプログラムはジブリとディズニーの映画音楽を演奏しました。部員達は練習以外の時間でも自宅やその他の場所でも曲の構成や企画を細部にわたるまで練りに練って考え、演奏会を成功させるために生活の大部分を定期演奏会に注いだのだと思います。第2部は感染予防対策のため客席はソーシャルディスタンス、お客様とのコール&レスポンスは禁止ということで、距離感を感じる設定ではありましたが、司会をはじめ、奏者の持ち味で光星高校らしいポップスステージをお届けすることが出来ました。

部員達は演奏会を通して企画や練習・本番を通して大きく成長することができ、自信へとつながる良い経験をする事ができました。特に3年生は部長を初め、技術的にも生活面でも大きく成長し、活動が制限された状況の中でも、素晴らしい活動をしてくださいました。本当に感謝しています。今後も更に上を目指して新たな体制で部員一同多くのことにチャレンジし、ステップアップできるように努力していきたいです。今後ともよろしくお願いたします。



**法人 日中の日本語学校と協定締結**

～中国との文化・教育分野交流推進へ～

日本語学校の「フジ国際語学院」(東京)と「行知学園」(中国天津市)の2校と連携協定を締結しました。今後、留学生受け入れのさらなる拡大と、中国との文化・教育分野の交流を推進します。



フジ国際語学院 [1/21]



行知学園 [1/25]

**野西高 今年は無観客で**

～保育福祉系列卒業演奏会～ [1/22]

1月22日(金)1・2校時に保育福祉系列の卒業演奏会が無観客で行われました。同系列3年次生の集大成とも言えるこの行事は、ピアノの演奏はもちろん、こども文化で学んだ造形の技術による壁面構成など、今まで勉強してきた成果を披露する場として毎年行われています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止から、1・2年次生、先生方などの観客を入れず、無観客にして実施しました。

3年次生からは、「夏休み前後から準備を進めていたのに、無観客になってしまい、とても寂しい気持ちです。来年度はコロナウイルスが落ち着き、通常通り実施できることを願っています。1・2年次生は、録画した私達の演奏を聴き、自分達の演奏会に向け、今後も練習を頑張してほしいです。」という声が聞かれました。



**野西高 青森県総合学科学習発表会**

～コロナやインフルエンザ対策を校内で考える視点が高評価～ [12/21]

11月27日(金)に学習発表会の校内予選会が行われ、鳥谷部浩人教諭が指導した『感染症について』が本校代表に決定し、12月21日(月)、第7回青森県総合学科学習発表会に出場しました。発表者は3年1組坂本紘己君(十和田市立甲東中出身)・高橋結芽さん(横浜町立横浜中出身)・細越里菜さん(横浜町立横浜中出身)です。

坂本君のグループは現在猛威を振っている新型コロナウイルスを始めとする感染症の、予防策として換気の実験を行い、「どのように換気すると効率よく教室内の空気を外に出すことができるのか」を発表しました。

講評では青森大学副学長である澁谷泰秀教授から「野辺地西高校の感染症対策はしっかりなされている。換気の実験だが、青森大学の薬学部でも同じような実験をしている。結果は野辺地西高校と同じであった。高校生でここまでできるのは素晴らしい。」とお褒めの言葉を頂きました。結果は3番目の評価でした。



## 八戸学院大学

### 八戸学院スポーツアカデミー・スポーツクリニック開催

スポーツに興味・関心を持ち、スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力を育む基盤形成と体力の向上や健康増進を図るとともに、自らの力で考え行動できる人間力(生きる力)の向上を目指すことを目的に、本学強化指定部のスタッフ・選手・教員によるスポーツクリニックならびに講座を開催いたします。

#### スポーツクリニック開催内容

- ◆硬式野球部による指導者・中学生対象野球クリニック  
投球・打撃フォーム、捕球動作について指導者の皆さんとディスカッションしながら中学生を指導します。
- ◆男子サッカー部による中学生対象サッカークリニック  
サッカーの原理・原則を学び、判断力を伴うスキル向上を目指すトレーニングを行います。
- ◆女子サッカー部によるジュニアサッカークリニック  
小学1年生から小学6年生までを対象としていますが、各年代に合わせたトレーニングを行います。専門技術の習得だけでなく、思考能力の習得も行います。
- ◆男子ラグビー部によるラグビー(タグラグビー)クリニック  
タグラグビーの他にもコーディネーショントレーニングや様々なレクリエーションを通じて、子ども達自身が主体的に考え、問題解決できるようなメニューを用意しています。
- ◆バスケットボール部によるミニバスケットボール  
多くの子ども達に上達できる場を提供し、バスケットボールの楽しさを感じることができるメニューを用意しています。
- ◆陸上競技部による小中学生対象陸上競技クリニック  
個々の短所を明確にし、改善できるトレーニングや、様々なトレーニングメニューの紹介も行います。
- ◆小中学生保護者対象食育講座  
アスリートおよび成長期の子どもの食事に関する注意点などを紹介します。

#### スポーツ局と

八戸学院スポーツアカデミー  
八戸学院大学  
学長 水野 眞佐夫

本学の魅力の一つは、学業とスポーツ活動を通しての全人教育による豊かな人間力を備えた次世代を担う「人財」の育成にある。この魅力を更に強化することを目的として、①学生支援②研究活性化③社会貢献、を三つの柱として掲げたスポーツ局が系列校との連携による大学主導で一昨年4月に新設された。社会貢献として、本学の学生が子どもたちや高齢者にスポーツの楽しさを伝える活動など地域のスポーツ振興の後押しを進めている。特に小学校の部活動運営は教員の働き方改革等により保護者への移行が進む中、市教育委員会の賛同を得て、強化指定部の学生と指導者を派遣することによる指導援助の試験的施行を重ねてきた。今後は、八戸圏域の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しむことができて健康の保持増進に貢献する環境作りと人財育成を本法人と地域住民が一体となって運営する「地域総合型スポーツクラブ」とする八戸学院スポーツアカデミーの創設が期待されている。



#### <全国を体験した高校時代>

小学1年生の時にサッカーに出会い、のめり込み、直ぐに生活の一部となりました。朝から夜遅くまで、とにかくサッカーボールと一緒にいました。中学校でもサッカーを続け、その後、光星学院高校サッカー部に入部。2年生、3年生と2年連続で全国高校サッカー選手権大会に出場、インターハイも3年生の時に出場することができました。

厳しい練習・指導でしたが、同じ目標を持つ仲間と共に過ごした3年間はかけがえないものとなり、社会に出るための基礎も学ばせていただきました。また3年生の時にJリーグが開幕し、サッカーが本場の意味で生活の一部となりえることを実感できたことがその後の人生に大きく影響しました。

#### <やり続ける・積み重ねる>

私の周りには強く信頼し自慢できるスタッフと選手が数多くいます。(在籍年数・選手時代含む)新井山祥智選手(13年)光星学院高校へ八戸大学、現アカデミーダイレクター中村圭悟(12年)光星学院高校卒、現U-12監督 藤山大輔(12年)、現U-18監督 照井篤(11年)、現事業統括本部長取締役 菅原康平(10年)、現トップチームGKコーチ 山田賢二(10年)、現事業・営業スタッフ 金井隆太(9年)、総務・財務担当 曾我玲美(7年)、その他、2年〜5年間在籍している若いスタッフが多数おります。どんな状況でも「クラブの色」を理解し考え、行動できる人間ばかりです。彼らはどんな状況でも「やり続ける・積み重ねる」ことができます。これは一見



株式会社ヴァンラーレ八戸  
代表取締役社長

下平 賢吾 氏

光星学院高等学校  
(現八戸学院光星高等学校)  
普通科 平成6年3月卒業

簡単なようでいて大変難しく地味な作業です。この作業がクラブの色を作り上げています。これからも若いスタッフらが「やり続けて積み重ねて」より強固な色が出来上がっていくのが想像できます。私は、この集団の先頭に立っていることに感謝の気持ちと大きな楽しみを感じています。

#### <地域に感謝の気持ちを>

我々の仕事は「地域貢献」「地域をスポーツ(サッカー)によって変える」とです。社会人リーグからJFLに昇格し、2019年にはJ3に昇格することができました。2度の昇格時に感じたのは、もともと地域貢献していかねばならないという想いです。それは自分達の力だけでは成し遂げることができ

#### <後輩へのメッセージ>

「何かを得るためには何かを犠牲にしなければならぬ」

在学時の光星学院高校サッカー部総監督 恩師、故飼牛正親先生の言葉です。私はこの言葉を実感・体感することができました。

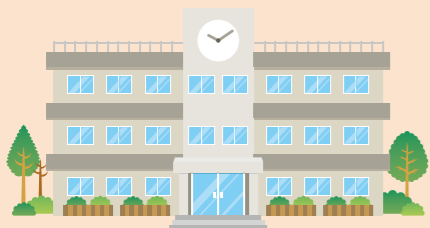
皆さんも厳しい状況に逢った際は、この言葉を思い出し、頑張る前に進んで下さい。

なかつた感謝の気持ちを地域に返さなければならぬからです。  
次のステージへの昇格を目指し全力で進んでいきます。



ブライフーズスタジアム (八戸市多賀多目的運動場)





### 八戸学院野辺地西高等学校



こんにちは、CJです！

#### For the First Time in Forever

On the summer of 2019, exactly on my birthday, my lifelong dream of living and working in Japan came true. I found myself truly immersing in Japan not just as a tourist, but as a resident.

It's my first time to be in Aomori. I have lived with my family in Ireland for four years so it wasn't my first time to experience winter but Aomori is extreme! I always feel cold! School life is pretty easy and my students are all very polite and nice to me. It makes my day and makes me feel warm inside when my coworkers give me sweets, and my students give me letters and origami that I decorate my home's genkan with.

In some of my classes, we watch and listen to English music videos with Japanese subtitles by popular Japanese artists such as ONE OK ROCK and RADWIMPS. Sometimes, we listen to BTS and Ed Sheeran among other foreign artists. I find that listening to a language helps a lot to enjoy learning one as I do the same when I'm learning Japanese. I believe that when words fail, music speaks.

It's my first time living alone. I enjoy the freedom and independence I have from doing my own chores (another first time!) to budgeting my daily expenses. To be honest though, it can get a bit lonely. Thankfully, there are a lot of Japanese families in my community who "adopt" and help me out. It's easy to feel at home with their warm love and generosity. Last year, it was my first time to spend Christmas alone since I had to quarantine but with virtual technology, I was able to talk to my friends and relatives from all around the world through videocalls, and celebrate with my Japanese friends through Line.

Overall, there's a first time for everything and I am thankful for JET and Nonishi for certainly giving me a lot of those when I arrived in Aomori two years ago. I still have a long way to go and I am looking forward to learn more about Japan, its culture, traditions, people and most importantly, its language with my stay here.

#### Czarah Jane Miranda

ミランダ・ザラー・ジェイン・ハルンシヨ

##### 【出身地】

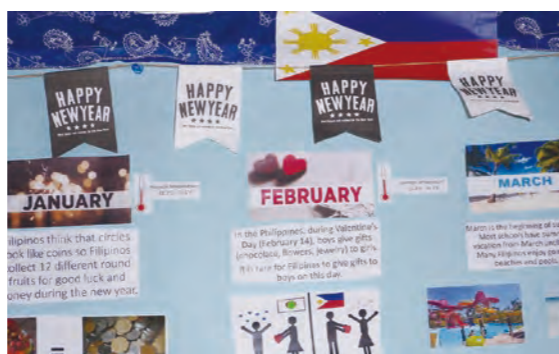
フィリピン ラグナ州

##### 【出身大学】

アテネオデーマニラ大学

##### 【趣味・特技】

コンピューターゲーム、バイオリン、料理とエッセイの執筆



みんなが楽しみにしている「CJ 掲示板」。



左：浴衣を着て「のへじ祇園まつり」に参加  
中：校内スキー教室ではスキー初体験  
右：授業風景（英語会話）



こんにちは、エティエンです！



### 八戸学院光星高等学校

#### Etienne Van Rooyen

エティエン・ヴァン・ローイエン

##### 【出身地】

オーストラリア クイーンズランド州

##### 【出身大学】

グリフィス大学

##### 【趣味・特技】

旅行、バスケットボール、ピアノ演奏

#### My adventure continues in Hachinohe and at Kosei High School

Having lived in Hachinohe for over a year and a half now, my time here in Japan and at Kosei High School shows me that I still have a lot to learn. My journey continues in living and working in a different country, but new challenges have arisen and tested me in several ways. However, with the help from staff, students, friends and family, it makes every moment in Hachinohe a blessing.

2020 was a difficult year. The ongoing global pandemic, COVID-19, caused many disruptions to everyone's daily lives and routines. This changed how teaching is done, with a shift to online learning platforms and the creation of a "new normal" inside and outside of school. The staff and students at Kosei impressed me by embracing this shift and putting education first. Despite the cancellation or postponement of many important school events, Kosei High School stands firm and as one! Alongside Kosei High School's embrace of online learning and use of social media platforms, I began a new weekly English series. "Mr. Etienne's Excellent English" is an enjoyable, weekly print series that teaches students English conversational and cultural topics. Topics range from common and unique expressions, to about my home of Australia. It is a fun and rewarding challenge to make these prints and videos! Keep an eye out for them on the school's homepage and Instagram account! My skills as a teacher have improved as well. When I started, I struggled with and doubted my contributions as an Assistant Language Teacher (ALT), but after lots of practice and learning, I hope to have reached a new level. Teaching is a rewarding experience thanks to the help of many teachers' advice and guidance. Little-by-little, the English skills of students have developed, and I cherish every opportunity to speak with, and learn from them.

My adventure continues in Hachinohe and at Kosei High School. I still have plenty to learn as I look forward to the new semester and towards a hopeful 2021. Thank you to all the staff and students for all of your help and support!



旅行やスポーツ、助けの求め方など毎回楽しく学べます。(ホームページ等で公開中)



左：イングリッシュクラブでのハロウィンパーティー  
中：校内スポーツ大会で進行を担当  
右：特別進学コースでの授業風景

# 法人誌「樹海」



法官新一  
Shinichi Hogan

今年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で、外出は制限されて家にいる時間が多くなった。大方の人はこうしたいがけない時間を、自宅の片付けに当てたようだ。ニュースにもなったが、市町村のゴミ収集は例年の何倍ものゴミが出て、担当者が困惑したとのコメントがニュースになった。やり場のない時間の活用は、一様に断捨離の時間に当たったことであろう。

実際、私もその一人になったのだが、放置しているガラクタを横目に、増える一方のアルバムにも目をやることにした。いざ手を付けるとそれぞれの思い出に浸り、時間が止まって捗らず結局は大して進まない。時々、折々に集めた資料も大事にしまっているが、山積状態である。

その中に、1983年12月25日付けで発行された法人誌「樹海」(創刊号)を見つけた。二代目理事長中村キヤ先生の時代に企画編集されている。巻頭言で中村キヤ先生は大集団になった学校法人間の親睦交流を図る目的で法人誌の発行を企画したと述べておられる。また、その創刊号のトップニュースが創設者故中村由太郎先生の追悼記事になったことも感慨深く述べておられる。

さらに、この「樹海」の命名について、「私は数年前に北海道旅行をした時、眺望台に立って見た樹海を思い浮かべました。大海原のように広がった森林の壮観に思わず息を呑みました。…」地下に根を張る樹をイメージし、そしてその一本一本の樹を本学院の教職員一人ひとりに例えておられ、本学の発展は、一本の木のみならず教職員みんなの力の結集という思いをはせておられる。そしてその木々が、無数に生き生きと野性的で荒々しくそそり立つ執念を一つにした形相と表現し「樹海」と命名した



と書かれてあった。久々に読む機会を得て、先人たちの思いがじんわりと伝わってくるような思いがして、大事にしたいかなければと思った。

残念ながら「樹海」は、この創刊号で次号に引き継がれることはなかったが、「キャンパス八戸学院」がその思いと共に役目を引き継いでいる。

# これからの八戸学院大学について —天の時、地の利、人の和—

八戸学院大学 学長 水野 眞佐夫

副題に掲げた教えは、本学のこれからのさらなる発展に想いを馳せる時に私の心に響く言葉です。来年度は着任3年目、そして、開学40周年を迎える本学(短期大学部は50周年)の今後の歩みにとって何が大切なのか、を考えてみます。

日本が目指す将来の社会像は、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する」新たな社会『Society 5.0』の構築とされています(総理府)。この新たな社会を支える学問的基盤の一つは情報学であり、「人の行動」、「知識・経験」、さらには「モノ」に係るデータをデジタルに置き換えて駆使する情報処理(デジタル・トランスフォーメーション・DX)への対応力の育成に関わっています。この学問領域は、商学部の単科大学として開学した本学の歩みを受け継ぐ地域経営学部のテーマに他なりません。一方で、このDXへの対応力は大学3学科と短期大学部2学科で学ぶ全ての次世代を担う人材に求めら

れています。世界が直面する課題・課題と持続可能な開発目標(SDGs)を八戸圏域の現状に引き寄せて、解決に挑戦する理論と実践を融合させた学問の高度化へ向けて、八学大は新たな挑戦の「天の時」を迎えたと感じています。

今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックの襲来は、「地の利」を発揮しての地方創生のチャンス再来である、という見方もできます。新たな社会を担う中心は人間であり、生命の維持にとっての食料の持続的供給は欠かせません。八戸圏域(青森県)の魅力の一つである豊かな食資源の維持を可能とする農畜産業・水産業に加えて流通業などを含む多様な職業・産業と地方行政・医療・福祉・教育・スポーツ・文化芸術活動等に従事する人材の育成と地元への定着が望まれています。地域のさらなる発展を担う若人の育成を地元の皆さまとともに担い、地元定着を推進する事業を展開する、本学の教員全員で構成されている地域連携研究センターの新たな取り組みに期待が寄せられています。



八戸の風土として、土(地元出身者)は風(私のような外からの流れ者)を心地よく受け入れてくれる、とした伝承を耳にしたことがあります。開学40周年を迎えて、色とりどりの教職員が共に新たな戦いに挑むこの局面。故事の教えは、「人の和」こそが「天の時」、「地の利」を超えて、志の達成と成功を導く、と説いています。



# 学生がつくる Fun Library



学生によりレイアウトされたコーナー

八戸学院図書館入口ゲートを通ると、正面に30冊〜40冊ほどの本が展示されているコーナーがある。約2ヶ月毎にテーマを変えて本を展示する特設展示コーナーだ。このコーナーは主に学生たちが書店で「ブックハンティング」した本や館内にある「みんなに読んでほしい」と選書した本が並べられている。面陳列でレイアウトされたコーナーには、学生が様々な工夫をして作成した手書きPOPが彩りを添え読書推進の一躍を担っている。これまでも「本屋大賞ノミネート作品本特集」や「モチベーションUP本特集」「学生が選ぶ文庫（ライトノベル）特集」など数多くのテーマ別展示を行っており、いつも賑やかなこのコーナーからは本もよく貸し出されている。

その他にも本学の学生が活躍している新聞記事をパネル化したり、新着図書案内も作成している。学生たちは誰もが来てみたくなる楽しい図書館づくりを目指している。



八戸学院図書館